

授 業 改 善 3つの強化ポイント 2019

主体的・対話的で深い学び

1

児童生徒の学習意欲を高める課題の工夫

- 本時の目標の達成につながり必然性のある学習課題を設定する。
- 一人一人が取り組みたくなる課題提示の工夫をする。
- 学習の見通しを持たせ、課題意識を喚起する。

2

考えを広げ深める対話的な学びの充実

- 本時の目標の達成のために必要な対話的な学びを設定する。
- 多面的な思考を促すために、学習形態や学習方法を柔軟に工夫する。
- 児童生徒の考えを広げ深める教師のコーディネートを工夫する。

3

学びの自覚につながる振り返る活動の充実

- 学習課題と整合したまとめをし、身に付けた知識や考え方を活用させる。
 - ・・・まとめ 個に戻る活動
- 本時の目標に応じて、評価の方法や手立てを工夫する。
 - ・・・個に戻る活動
- 自己の変容を自覚させ、達成感と次への課題意識を持たせる。
 - ・・・振り返り

振り返る活動を充実させることで…

- 個の習熟に応じた指導につなげる。
 - 指導方法・指導内容を見直す。
 - 次時への学習意欲を喚起する。
- 家庭学習との連動等



本時の目標の達成

- 児童生徒の目標達成の見取りと、達成状況に応じた個への手立て

3つの強化ポイント 実践チェックシート

1

児童生徒の学習意欲を高める課題の工夫

- 学習指導要領の趣旨や指導事項を踏まえ本時の目標を設定している。
- 本時の目標を達成するための課題になっている。
- 児童生徒が主体的に問いや疑問を見出せるよう、導入を工夫している。
(ICTの活用, 実物の提示, 演示, 生活経験の想起や活用等)
- 問いや疑問をもとに, 目標達成につながる学習課題を設定している。
- 既習事項や単元(題材)の流れが分かる掲示等, 学習環境を工夫している。
- 本時の学習の見通しを持たせ, 主体的な課題解決を促している。

2

考えを広げ深める対話的な学びの充実

- 自分の考えを持つ時間を確保している。
- 対話的な学びの必要性を児童生徒と共有している。
- 目的に応じて学習形態(児童生徒同士の協働, 教職員や地域の人との対話等)を工夫している。
- 思考ツールやワークショップ形式を取り入れるなど交流方法を工夫している。
- 児童生徒が根拠や筋道を明確にして自分の考えを表現できるように, 話す活動・書く活動を工夫している。
- 児童生徒の考えが深まるように, 見取りを生かし, 意見の取り上げ方や問い返し・ゆさぶりを工夫している。

3

学びの自覚につながる振り返る活動の充実

- まとめの内容が学習課題と整合している。
- 学習したことを振り返ることができる板書になっている。
- 身に付けた知識や考え方を活用させる言語活動や適用問題等を工夫している。
- 本時の目標に応じた適切な評価の方法を工夫し, 見取っている。
- 児童生徒の到達状況に応じた手立てを工夫している。
- 教科の特質や各時間の目標に応じた振り返りを設定している。
- 本時の学びが定着・発展するよう家庭学習につなげている。

児童生徒の姿として

- 児童生徒が学びを自覚し, 達成感や成就感を持っている。
- 新たな問題・課題を見だし, 次への意欲を高めている。
- 児童生徒が, 本時の目標を達成している。

